

# 農業技術情報

令和元年8月19日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128  
JA幕別町 0155-54-4118  
JAさつない 56-2131  
JA帯広大正 64-4591  
日甜幕別原料事務所 54-2756  
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町8月15日）（ ）内は平年値（※前年値）

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	—	収穫始 7/24 (7/28) 収穫期 7/29 (7/31) 収穫終 8/2 (8/6)	
春まき小麦 (春よ恋)	—	収穫始 8/7 (※8/7) 収穫期 8/18 (※8/7) 収穫終 8/19 (※8/8)	成熟期 8/6 (※8/7)
馬鈴しょ	+3	茎長 73.0 (74.8) cm 茎数 3.5 (3.8) 本/株	茎葉黄変期 8/9 (8/12)
大豆	+4	茎長 76.7 (68.7) cm 葉数 10.0 (9.1) 枚 着莢数 411.1 (368.3) 個/m <sup>2</sup>	
小豆	-3	茎長 42.5 (49.1) cm 葉数 11.9 (11.0) 枚 着莢数 91.2 (139.4) 個/m <sup>2</sup>	
菜豆 (金時)	+2	茎長 53.1 (55.0) cm 葉数 4.0 (4.1) 枚 着莢数 168.0 (154.7) 個/m <sup>2</sup>	
てん菜 (移植)	+5	草丈 73.8 (64.7) cm 葉数 30.5 (28.0) 枚 根周 35.5 (32.4) cm	
てん菜 (直播)	—	草丈 57.4 (※53.3) cm 葉数 23.2 (※20.8) 枚 根周 23.4 (※26.7) cm	
牧草 (2番草)	±0	草丈 83.9 (84.0) cm	
飼料用とうもろこし	±0	草丈 305.4 (304.1) cm 稈長 274.2 (264.0) cm 出葉数 16.4 (17.3) 枚	雄穂抽出期 7/29 (7/29) 絹糸抽出期 8/1 (8/1)
ながいも (マルチ)	±0	種子重 44.7 (43.9) g 茎葉重 436.0 (422.2) g いも長 48.2 (48.1) cm いも重 274.5 (250.3) g いも径 41.7 (40.0) mm 首長 23.3 (21.6) cm	
たまねぎ	-4	球径 7.5 (7.8) cm	倒伏期 8/13 (8/9) 倒伏始 8/6 (8/5)

## 畑作

### <秋まき小麦>

高収量・高品質の小麦づくりは、適期適正は種からスタートします。根張りが良く強い株を均一に作るために、過湿時には種床準備は避けましょう。また、種子伝染性病害や土壌病害の発生リスクを最小限にするために土の移動に注意し、消毒済の購入種子を使用しましょう。

#### 1 適正は種に向けて

- ・透排水性の劣るほ場では、心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。
- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5以上を目標に酸度矯正をしましょう。土壌サンプルの持ち込みと問い合わせは、JA・普及センターにお願いします。

- ・銅欠乏症状の出やすい土壌（腐植の多い火山性土等）は、銅の補給が必要です（Cu入り肥料等や堆肥の施用）。ただし、銅は微量元素で過剰障害も生じやすいので、土壌診断値に基づき、適正量を施用しましょう。

## 2 雑草対策

シバムギ・レッドトップ・ギシギシなど多年生雑草が多い小麦畑が散見されます。多年生雑草対策には耕起前の除草剤茎葉処理が有効です。

\* 処理方法・薬剤は「8月2日付技術情報」参照

## <てんさい>

作況ほの生育は平年に比べ5日早く、根周は順調に肥大しています。褐斑病は気象条件次第で急速に進展するため、ほ場をよく観察し適期防除に努めてください。

### 1 褐斑病の防除

今後も継続的な防除を続けてください。

D M I 剤およびカスガマイシン剤は道内で広く耐性菌の発生が確認されています。可能な限り使用回数を低減してください。また、D M I 剤はマンゼブ剤と同時に使用しましょう。

### 2 ヨトウガの防除

老齢化すると薬剤の効果が下がるため、ほ場観察し、防除適期を逃さないようにしましょう。

表1 8月下旬の防除薬剤例（褐斑病・ヨトウガ）

対象 病虫害	農薬名	成分または 系統名	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
褐斑病	ホクガード乳剤 25	D M I	1,500	14日	2回
	＋ グリーンペンコゼブ水和剤 またはグリーンダイセンM水和剤	マンゼブ	500	21日	5回
ヨトウガ	ダズバン乳剤	有機リン	1,500	45日	2回

\* マンゼブを含む剤の総使用回数は5回まで

### 3 葉腐病の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。発生が見られたら直ちに防除を行ってください。

表2 葉腐病の防除薬剤例

農薬名	分類名	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)
リンバー顆粒水和剤	S D H I	4,000	7日	3回
モンカットフロアブル 40	S D H I	1,000	14日前	4回

## <馬鈴しょ>

7月末～8月上旬の高温の影響で茎葉黄変期は平年より3日早く迎えました。

8/15現在の玉数は平年をやや下回るものの、肥大状況は良好です。今後の肥大状況、でん粉価を確認し茎葉処理を行いましょう。

### 1 塊茎腐敗、軟腐病対策

生育後半の疫病、軟腐病発生は塊茎腐敗の原因となります。収穫までの日数や病害の発生状況に応じて薬剤を選定し防除を継続しましょう。

表3 疫病の防除薬剤例（塊茎腐敗登録のある剤のみ抜粋）

薬剤名	使用濃度（倍）	使用時期（収穫前）	使用回数（以内）	成分または系統名	浸透移行性	効果の発現	対象病害（倍）		
							夏疫病	菌核病	塊茎腐敗
ライメイフロアブル	2,000～3,000	7日	4回	アミスルブロム	●	予防	—	—	2,000～3,000
プロポーズ顆粒水和剤	750～1,000	7日	5回	ベンチアバリカルブイソプロピルTPN	○ ×	予防 治療	1,000	—	750～1,000
フロンサイドSC	1,000～2,000	7日	4回	フルアジナム	×	予防	2,000	1,000	1,000
ランマンフロアブル	1,000～2,000	7日	4回	シアゾファミド	●	予防	—	—	1,500
レーバスフロアブル	1,500	7日	2回	マンジプロパミド	●	予防 治療	—	—	1,500

※○：浸透移行性が認められる ●：浸透性のみ認められる △：浸透移行性が認められるが強くない

×：認められない

※ 薬剤名が異なっても、成分（分類）が同じ場合は連用を避ける

※ シモキサニルを含む剤の総使用回数は合計4回まで

### 2 収穫作業

\* 茎葉処理については8/2付農業技術情報参照

- ・ 収穫作業は茎葉枯凋処理から7～10日後に、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。また、茎葉枯凋後7～14日以内に収穫しましょう。
- ・ 収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。
- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病による腐敗、緑化、品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などができないように注意しましょう。

## <豆 類>

小豆では猛暑時の開花で一部落花や着莢遅れが見られていますが、各豆類とも莢伸長時期を迎えています。降雨後の多湿条件下で菌核病や灰色かび病の発生が懸念されます。ほ場を観察し適期防除に努めてください。

### 1 菌核病と灰色かび病の防除（小豆、菜豆）

菌核病、灰色かび病の発生が確認または発生の恐れがある場合は、前回防除から10日間経過していなくても薬剤防除を実施してください。

※ 防除薬剤例は8/2付の農業技術情報及び「農作物病害虫防除基準」を参照してください。

### 2 マメシクイガの防除（大豆）

近年マメシクイガの子実への被害が見られます。マメシクイガは莢が2～3cm以上になってから5～7日程度で莢へ産卵を始めるので、産卵の最盛期から7～10日間隔で2回程度防除します。頭数は昨年より少ないながら幕別町内のフェロモントラップでマメシクイガの発生が確認されています（7/19～29：1頭、7/30～8/6：1頭、8/7～13：1頭）。産卵の最盛期は過ぎたと見られますが、発生は続いており注意が必要です。

※ 防除薬剤例は8/2付の農業技術情報及び「農作物病害虫防除基準」を参照してください。

### 3 インゲンマメゾウムシの防除（金時、手亡）

インゲンマメゾウムシの成虫は、7月下旬以降に出現し、8月上旬～9月上旬に発生が見られ、成熟の早い菜豆が被害を受けやすくなります。防除時期は下記を目安にして下さい。

- ・金時の防除時期：莢の色が抜け、白莢が見える時期（8月中旬～）
- ・手亡の防除時期：子実が大きくなり莢の色が抜け、白莢が見える時期（8月下旬以降：金時から1週間後程度）

表4 インゲンマメゾウムシの防除例

防除回数	農薬名	成分または系統名	使用濃度（倍）	使用時期（収穫前）	使用回数（以内）
1回目	バイスロイド乳剤	ピレスロイド	2,000	7日	3回
2回目	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	前日	3回

※ 1週間ごとに2回防除する

※ 莢全体に薬剤がかかるよう、散布水量は多めとする

## <収穫から保管時の注意事項>

- ① 成熟期以降は早めに収穫する。
- ② 収穫した豆は速やかに出荷し、必要以上の長期間の保管は避ける。
- ③ は種時に余った種子は、適正に処分する。豆の一時保管場所を清掃し、餌となる豆を一年間残さない。

#### 4 ハダニ防除(大豆・小豆)

高温乾燥条件で発生が懸念されます。ほ場を観察し、葉のかすれ症状が目立つ場合は防除を検討しましょう。

表5 ハダニの防除薬剤例

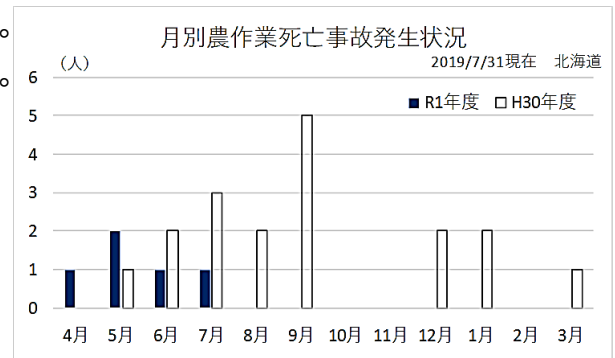
作物	薬剤名	成分または系統名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
大豆 小豆	トクチオン乳剤	有機リン	1,000	30日※	大豆：3回 小豆：2回
	ダニトロン フロアブル	M E T I	1,000～ 2,000	7日	1回

※ 特に小豆は収穫前日数に注意

### 農作業事故を防ごう！！

例年夏～秋の収穫作業にかかる時期に事故が多く報告されています(図)。特にハーベスタによる「挟まれ、巻き込まれ」の事故に十分注意しましょう。

- ★だぶつきの少ない服装で作業しましょう。
- ★緊急回転停止装置を複数装備しましょう。
- ★選別部の詰まり物除去は、必ず回転を止めてから行ってください。
- ★機械走行中、飛び乗り・飛び降りは絶対にやめましょう。
- ★機械周辺では声を掛け合って事故防止に努めましょう。
- ★防除の際の農薬によるドリフト事故がみられます。防除作業を実施する場合は、風向きや噴霧圧に注意し、隣接するほ場への飛散防止につとめましょう。



## 野菜

### <ながいも>

本年8月15日現在の作況調査(マルチ栽培)では、1株当たり茎葉重が436gで平年比103%、いも重274.5gで平年比110%、いも長48.2cmで平年比100%と、新生いもの肥大は良好です。

◎ 来年度ながいも作付け予定ほ場の緑肥栽培

作付け予定ほ場の前作が秋まき小麦の場合は、小麦収穫後にえん麦野生種(ヘイオーツ等)をは種し、センチウ対策を実施してください。

### <にんじん>

(1) 黒葉枯病・軟腐病の防除

ほ場を確認し、防除を実施してください。

※薬剤については、「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

## (2) アブラムシ類の防除

アブラムシが発生しているほ場では、黒葉枯病や軟腐病と同時防除してください。

※薬剤については、「8月2日技術情報」「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

## <レタス>

病害では軟腐病、腐敗病、すそ枯病などに注意するとともに、害虫では引き続きナモグリバエ、アザミウマ、アブラムシなどの防除を適期に行ってください。

※薬剤については、「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

### (1) ベと病の防除

秋に向けてベと病が発生しやすくなります。予防防除を行ってください。

表1 レタスベと病の防除薬剤例

薬剤名	系統名・成分名	使用濃度 (倍)	使用時期	回数 (以内)	注意事項
ドイツボルドーA※	塩基性塩化銅	500~1,000	—	—	予防
ダコニール 1000	有機塩素 (TPN)	1,000	収穫14日前	3回	予防
アミスター20 フロアブル	QoI	2,000	収穫3日前	4回	予防
ランマン フロアブル	シアゾファミド*	2,000	収穫3日前	3回	治療
レーバス フロアブル	マンジプロパミド*	2,000	収穫7日前	3回	予防・治療

※野菜類で登録あり。クレフノン200倍を加用する。

## <キャベツ・はくさい>

コナガの防除は、継続して行ってください。コナガは薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統殺虫剤の連用は避けましょう。特にジアミド系薬剤は道内でもすでに薬剤抵抗性をもつ個体が確認されているため、できる限り1作型に1回の使用に抑えてください。

※薬剤については、「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

### (1) はくさいの軟腐病、ベと病防除

軟腐病の発生が多い時期です。また、秋に向けてベと病が発生しやすくなるため防除を実施してください。

※薬剤については、「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

### (2) キャベツの株腐病防除

一部ほ場で、株腐病の発生が確認されています。結球～収穫期の高温・多湿条件下で発生しやすくなります。結球初期から予防防除を行いましょう。

※薬剤については、「平成31年度農作物病虫害防除基準」を参照。

## <たまねぎ>

### (1) 根切り作業

根切りの目的は、変形、裂皮、皮ムケ防止や均一な枯葉、着色促進による品質の向上です。適期に根切りを行い、品質低下を防ぎましょう。

○根切り時期の目安

早生品種	倒伏揃後 5～7日
中生品種	倒伏揃後 10～15日

- 「倒伏揃」…茎葉が80～90%倒伏した時期。今年は生育が旺盛で葉鞘径が太いので注意する。葉鞘径が太い場合は、倒伏期（40～50%倒伏）後の日数とする。また、立っていても葉鞘が空洞であれば倒伏と見なす。
- 土壌が乾燥した晴天日に行う。ただし、高温で日差しの強い日は地上部に露出した部分に日焼けを生じる恐れがあるため、作業を見合わせる。また、枕地を手掘りして寄せる場合は、茎葉で球を覆い長期間放置しない。
- 降雨により収穫が遅れた場合は、再度根切りを行う。

(2) 倒伏期～根切りまでの防除

灰色腐敗病や細菌性病害の被害を防ぐため適期に防除を実施し、被害軽減に努めてください。特に多雨で推移する場合は防除を徹底してください。

表2 倒伏期～根切り期の防除例

防除時期	対象病害	薬剤名	成分名	使用濃度(倍)	使用時期	回数(以内)
(臨機) ※1	灰色腐敗病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル	500～1,000	収穫前日	5回
	軟腐病	Zボルドー	塩基性硫酸銅	500	—	—
根切り直後	灰色腐敗病	ポリベリン水和剤	イミノクワジノン酢酸塩・ホリオリキシン複合体	750～1,000	収穫3日前	5回
	軟腐病	Zボルドー	塩基性硫酸銅	500	—	—
(臨機) ※2	灰色腐敗病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル	500～1,000	収穫前日	5回
	軟腐病	Zボルドー	塩基性硫酸銅	500	—	—
収穫前日	灰色腐敗病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル	500～1,000	収穫前日	5回

※1 倒伏後、根切りまで時間を要する場合

※2 根切り後、収穫までに時間を要する場合

(3) 抽台株の抜き取り

根切りや収穫作業の妨げとなりますので、抜き取りを行ってください。

(4) 収穫の早期実施

例年、収穫時期の長雨等により収穫が遅れ、泥の付着やシミの発生等による外観品質の低下が見られます。計画的な根切りを行うとともに、根切り後は茎葉が枯葉したら早めに収穫を行ってください。

- ・肌腐れ等の障害球が混入しないよう収穫前に除去してください。
- ・タッピングは首部が十分乾燥してから行ってください。
- ・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所で風乾してください。

(5) 苗床における緑肥のすき込み

緑肥をは種した苗床は、早めに緑肥をすき込んでください。十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。また、土壌混和後は、必ず土壌診断を実施してください。

(6) 本畑の緑肥栽培

早生品種のほ場では、収穫後に緑肥を栽培して地力維持と病害低減を図りましょう。後作緑肥にえん麦野生種を栽培する場合、可能な限り早めには種してください。は種が9月になる場合は、は種量を15~20kg/10aと通常よりやや多めにしてください。